

明石市コミュニティバスの運行等について

平成16年度より運行している明石市コミュニティバス（たこバス）については、西江井ヶ島ルート（たこバス）の運行事業者が変更することとなりましたので、変更の経緯と、たこバス事業のこれまでの経緯や現在の運行状況、今後の予定等について報告します。

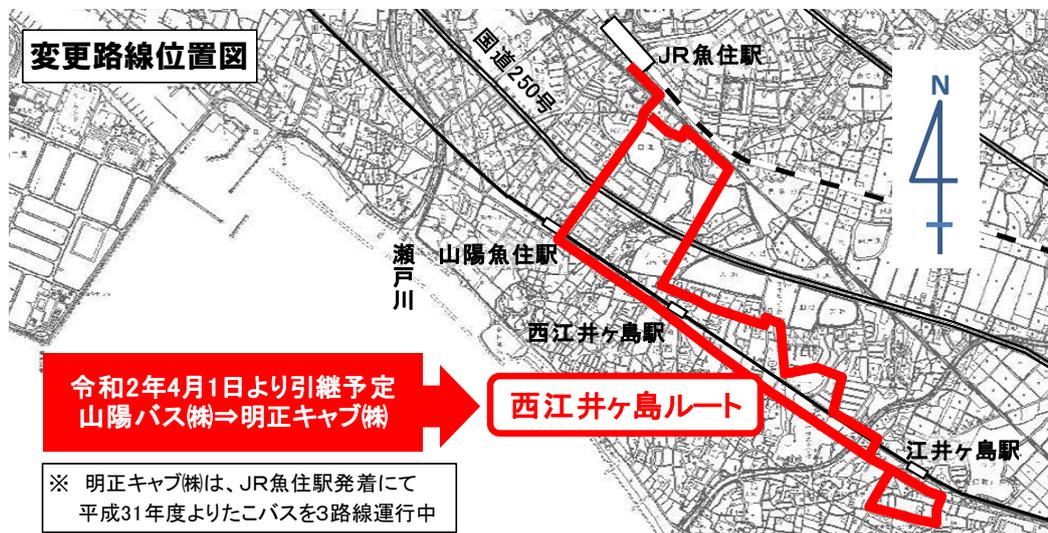
1 事業者の変更について

(1) 変更路線概要とこれまでの経緯

変更路線：西江井ヶ島ルート（平成30年度利用者数76,586人/年、7.1km）

変更予定日：令和2年4月1日

変更運行事業者：山陽バス(株)から明正キャブ(株)へ変更



平成31年4月1日：山陽バス(株)については、人件費等の高騰や運行経費の負担増などにより運行路線の維持が困難との申し入れがあり、協議の結果、運行している5路線のうち、明正キャブ(株)へ3路線、ルミナスタクシー(株)へ1路線の4路線を引き継ぐ。

令和元年9月2日：山陽バス(株)から市に、残りの1路線である「西江井ヶ島ルート」についても、昨年度から状況に変化がないことから、令和2年度からの運行辞退を申入れ。

令和元年11月中旬：協議の結果、残りの1路線を明正キャブ(株)が継続運行で基本合意。

令和元年11月20日：明石市地域公共交通会議※に「たこバス路線の一部変更について」を諮った結果、引継路線、事業者、スケジュール等について承認を得た。

※地域の需要に応じたバス等の旅客輸送の確保その他旅客の利便の増進及び地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するため、道路運送法施行規則（昭和26年運輸省令第75号）第9条の2に規定する会議で、委員は市民、行政、交通事業者、警察等で構成しています。

(2) 今後の予定

令和元年 12 月下旬：明正キャブ(株)が事業者変更届を国土交通省神戸運輸監理部へ提出

令和 2 年 3 月：山陽バス(株)から明正キャブ(株)へたこバス車両の引継、実車による路上教習等

令和 2 年 4 月：明正キャブ(株)による営業運行開始

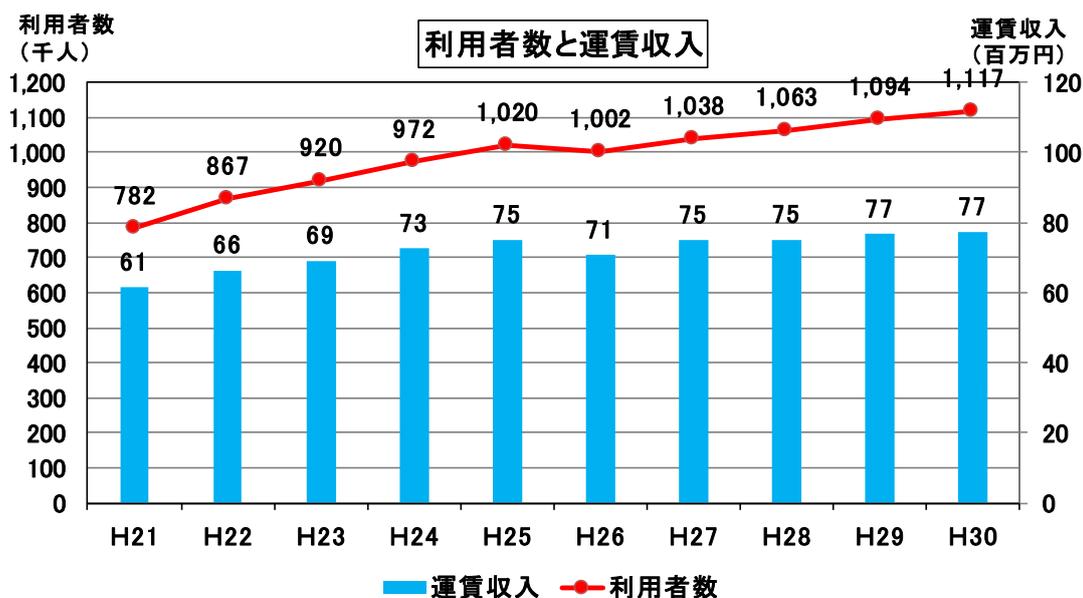
2 たこバスの運行状況について

(1) 利用者数・運賃収入

利用者数については年々増加しており、昨年度は過去最高の 111 万 7 千人が利用し、運行当初の目標であった 1 日あたり平均 3 千人を超えることができました。

運賃収入についても利用者数にあわせて年々増加している状況です。

一方、ドライバーの人材確保などが困難な状況もあり、昨今の人件費の高騰などにより、山陽バス(株)のみならず、各交通事業者においても、運行経費が増加しているといった課題があるところです。



(2) 現在の運行状況

本年度については、4 月 1 日より寿優待制度の拡大として 70 歳以上の高齢者の無料化を実施し、利用者数は 4 月から 9 月までで 66 万 2 千人と前年比約 16%増加しており、本年度は約 130 万人の利用が見込まれます。

利用者のうち、高齢者の割合は、3 月に調査した結果の約 30%から、11 月に調査した結果、約 48%と大きく増加している状況です。

一方、現金による運賃収入については、4 月から 9 月までで前年と比べると、約 30%以上の減収となっています。

3 たこバスの運行課題における今後の対応について

たこバスは運行開始以来、これまで多くの市民の足として利用され、継続的な運行や、利便性の向上などが求められており、今後も事業スキームやルートの見直しなどの検討を行い、様々な課題に対応していきます。

また、11月に実証調査を実施した新しい交通の形である「グリーンスローモビリティ」の調査結果なども踏まえながら、たこバスだけに限らず、あらゆる交通手段も模索し、地域の力も活用しながら、高齢者を含めた誰もが移動しやすい交通環境づくりに取り組みます。

4 その他

グリーンスローモビリティの実証調査については、10月30日から11月22日まで調査運行を行い、延べ360人の利用がありました。

今後は、利用者からのアンケート結果などをもとに、調査結果を検証、分析し、活用の可能性などを検討していきます。